

助産師会に入ることの意味

東京都助産師会会長 宗尚子

今年度6月から再度当会の会長に就任し、3年目を迎えます。助産師会の役割と入会する意味について、改めて私の考えを皆様にお伝えしたいと思います。

当会の目的は定款（会の業務や規則を定めたもの）第3条に定められています。

「当法人は、助産師相互の協力と助産専門職の水準の維持向上並びに利用者に対する質の保証を図り、母子保健事業を通じ、女性と子ども及び家族の健康・福祉の改善・向上に貢献することを目的とする。」この言葉に集約されます。これらの意味を具体例に説明したいと思います。

1、助産師相互の協力

これは、会員同士の交流を深め協力し合うことです。助産師会には、助産所部会・保健指導部会・施設勤務部会と3つの部会がありますが、助産師会に入る大きなメリットの一つは他の部の会員と交流できる事です。病院の中で働く助産師にとっては、地域で病院から退院した後の母親たちの姿が見えにくく、逆に地域で働く助産師にとっては、出産施設での母親の様子はわかりにくいと言えます。相互に交流することで孤独な子育てをしている現代の母親たちを、より理解できるのではないのでしょうか。

2、助産専門職の水準維持向上並びに利用者に対する質の保証

現在出産や育児を取り巻く状況は、時代の流れとともに刻々と変化しています。産科医療の変化だけでなく、社会環境の変化、行政の取り組みな

ど常にアップデートが必要です。当会は様々な研修を通じて最新の情報を提供しています。助産師会に入っていないなくても受講できる研修もありますが、得られる情報の量は会に入っている方が圧倒的に多いと言えます。最近では多くの産後ケア業務を行政から委託されます。会に入っていれば、産後ケアの一定の水準が保たれているとされ、相互評価もされます。しかし組織率は30%にとどまっています。できるだけ多くの助産師に当会に入会してもらい、助産師が行うケアの質を向上させていきたいと思います。

3、母子保健事業を通じ、女性と子ども及び家族の健康・福祉の改善・向上に貢献する

助産師会に居ることの意味は、ただ母親たちの悩みを聞いて終わるだけではなく、それを行政に届け制度変更まで行っていくことができるという事です。現在、当会は予算要望を行政に届けることに力を入れ、様々な制度改革を促し実現しています。東京都福祉保健財団からの助成を受け新たな助産師マップを作成し、プレパ講座の開催を行っています。更に父親が赤ちゃんと一緒に参加するディケアも行っています。子育ては決して母親だけのものではなく父親も参加すべきものですが、父親を教育する場所は今までどこにもなかったといっても過言ではありません。このような今日的な問題に取り組むことが出来るのも、助産師会あっての取り組みと言えます。要望内容は別途紹介していますが、母子保健事業を通して女性と子ども及び家族の健康・福祉の改善・向上に貢献することが出来ます。

公益社団法人東京都助産師会

2024 年度第 1 回定時社員総会報告

総務理事 岩田敦子

2024 年 6 月 22 日(土)13 時から、公益社団法人東京都助産師会 2024 年度第 1 回定時社員総会が開催されました。今回も式典は行わずに総会のみ対面での開催となりました。宗尚子会長(以下、会長)の挨拶「現在少子化が非常に進んでおり、子どもたちが少なくなっていることを皆さんも実感されていることと思う。一方で産む人は高齢化し、麻酔分娩数が増えている。麻酔分娩では経過が順調な人もいるが、産後に身体の回復の遅れや愛着形成不全など困難な思いをしている方も多くいる。産後ケアでそうした方のケアを日々行っていると、本当の意味で愛着形成をするためには妊婦さん自身がどういうお産をしたいのか、するのがいいのか自覚することが必要だと思う。できれば産む前、もっと言うと妊娠前から教育して、もっと真剣に自分がどういうお産をするのか考えられる人を育てていきたい。それこそが少子化を食い止めることや、虐待や望まない妊娠を防ぐことにつながる。こうしたことを政治家に伝えて、本当の意味での子育て支援が何かを伝えられるような会の運営をしていきたい。また、東京都助産師会の役員や委員は無償で役割を担っている。これについては今後有償にし、それでも本部の運営が成り立つような方法を一緒に考えてもらいたい。またいろいろなコンサルについて法的な面などで相談に乗っていただきながら進めていきたいと考えている。」を受け、定時社員総会が始まりました。

司会進行役の専務理事 伊藤仁子氏より、定款 18 条 2 項に基づき、出席社員の中から議長として橋本初江氏、副議長として相沢澄子氏、板橋知子氏の推薦があり、異議なく選出されました。議長の橋本氏より 2024 年度定時社員総会の開会が宣言されました。社員総数 1151 名、出席社員総数(委任状を含む)652 名で、本総会で提出する議案を審議するのに必要な定足数(定款 19 条 1 項:過半数)は満たしていることが報告されました。監事の山本聡氏より、本日の定時社員総会に提出されたすべての議案および書類を調査したところ、いずれも法令および定款に適合しており、不当な事項はないと認めたことの監査結果の報告がされました。

報告事項 1 2023 年度事業報告の件(定款 43 条 2 項)
会長より、2023 年度事業について資料に基づいて報

告されました。この資料は当会インターネットウェブサイト会員ページで公開されています。焦点化して報告があった内容は以下のとおりです。(総会資料 1～10 頁参照)

2023 年度東京都助産師会定時社員総会の報告

2023 年度定時社員総会は、2023 年 6 月 17 日(土)に公益財団法人東京都助産師会館講堂において開催され、審議された内容は全て承認されました。

理事会・運営会議・地区分会長会議の報告

2023 年度も新型コロナウイルスのため、すべての会議をオンラインで行いました。理事会は 8 回、運営会議は 2 回開催しました。第 2 回理事会では 10 月に行われた南北関東地区研修会について話し合いました。この研修会は日本助産学会とコラボして開催し、多くの方の参加がありました。第 3 回理事会では、東京都福祉財団からの助成金を獲得することについて話し合い、その後助成金の獲得により助産師マップを作成することが出来ました。第 7 回理事会では来年度の方針について話し合い、本日の総会に向けて準備を行いました。運営会議では各委員会や部会の方針や活動計画を決めたり、活動報告や予算作成を行いました。

地区分会長会議は 5 回開催し、理事会報告や各地区分会の活動報告などが行われました。伴走型支援の事業委託についてなど、良い情報交換の場になっています。

専門部会、委員会の報告

資料に基づき、会長より順次報告されました。助産所部会はお産のを中心に行っています。施設勤務部会は入会していない助産師が多く、今後その点を検討していきます。保健指導部会はインシデント・アクシデントの勉強会を行いました。委員会報告では、総務総括委員会は表彰者の選定を行います。広報委員会は助産師マップ作りに貢献し、サンバ通信の発行やメルマガ作成、HP の作成についても尽力しています。政策提言委員会は、様々な所に要望を出して、その活動により具体的に政策が実現しています。教育委員会は東京都委託講習会の 2023 年度のプログラムを作成し運営を行いました。また、NCPR の講座に物品の貸し出しを行っています。いのちの教育委員会ではエドゥケーターの育成を行って、我々の要望の一つである、東京都のすべての小中高にいのちの教育、包括的性教育を届けられるよう活動しています。医療安全管理室は助産業務安全対策委員会とは別の組織で、事故や問題が生じたときに検証を行い、その後安全対策委員会で検討する形になっています。2 か月ごとに開催され、弁護士の五島先生にも出席してもらっています。ここでもインシデントアクシデントレ

ポートの提出を促しています。災害対策委員会では、首都直下型地震が起こったときどう対応するか考えておかなければいけない問題として考えています。産後ケア推進特別委員会では、産後ケアの評価表を完成させました。こちらは研究的な活動が主となっています。

子育て女性健康支援センターの電話相談 122 件。オンライン助産師相談の相談件数 1043 件。コロナ陽性妊産婦自宅療養健康観察事業については 2023 年 5 月 7 日で終了しました。

以上の報告に対し、会場からは、役員報酬について賛成意見、公的事業を助産師会として受託してほしいとの要望、委託事業の会計処理についての相談、いのちの授業を行なうエデュケーターの質の保証のための体系的な講習の希望などの意見が出されました。

報告事項 2 2024 年度事業計画及び収支予算報告の件 2024 年度事業計画（総会資料 10～16 頁参照）

会長より 2024 年度の事業方針・事業計画について、資料に基づいて報告されました。これを踏まえ、東京都に今年度の事業方針を提示し、公益社団法人として事業として挙げているものに基づいて、事業毎に計画を挙げています。詳細は資料で確認してください。専門部会の事業計画についてですが、助産所部会は年々分娩が減少していますが、より安全で快適な分娩ができるように努力していきます。施勤務部会は入会者が少ないので、入会しているメリットをアピールして入会者の増員を目指します。保健指導部会は勉強会の開催や活動のアピール、活動内容の調査、業務安全など非常に重要な役割を担ってきています。会員の皆様には、中日アド企画の助産師相談コーナーやいいお産の日のイベントへのご協力をお願いします。

政策提言委員会は委員募集中です。教育委員会は委託講習会 24 講座を企画するのでぜひご協力下さい。また、いのちの教育委員会では生・性を語るエデュケーターを取りやすくなるように活動していきます。助産業務安全対策委員会はより安全なお産ができるよう努めます。助産以外の訪問時のことでも相談したいことがあればお問い合わせください。災害対策委員会は常に頭に置く必要があることであり、産後ケア推進特別委員会は産後ケアの評価を導入しています。ただ赤ちゃんを預かって休むだけでなく、委員会で出した評価を基により良い産後ケアを行っていけるようにしていきたいと思います。

会場からは、東京都の少子化対策事業が自治体間で格差が大きいことが費用調査から明らかになったので格差を減らせるようにしてほしい、産後ケアのアウトリーチ

事業の拡大により乳房ケアの開業助産師の仕事が減っている現状について、政策提言でアプローチしてもらいたいと意見が出されました。

2024 年度収支予算について

財務理事の横川氏より資料に基づいて説明されました。経常収益計 83,150,809 円、経常費用 83,082,163 円となり、当期経常増減額は 68,646 円と報告されました。昨年度の予算と比較すると、経常収益、経常費用ともに全体として 1300 万円ほどの増額がみられています。これは、事務局本部の「子ども輝く東京」の助成金の収入・支出がともに 400 万円ほどあること、地区分会から上がって来た委託事業費の合計が昨年度より 1100 万円ほどの収益増となっており、助産師報酬で同じく 1100 万円ほどの支出が影響していると考えられます。

決議事項

第 1 号議案 2023 年度事業報告ならびに 2023 年度決算（計算書類）報告承認の件（別紙令和 5 年度決算報告書案参照）

財務理事の比嘉氏より資料に基づいて説明されました。内訳について、公益目的事業会計の当期一般正味財産増減額が 2,147,377 円のプラスとなっています。公益事業においては原則余剰金が生じてはいけませんが、これについては次年度以降の公益目的事業拡大のための準備金として、使用の用途（地区分会におけるいのちの授業の規模拡大準備金、出産準備教室の新規立ち上げ準備金、公益目的の講習会の準備金、周年記念行事等）が決まっています。

会場からは、各地区分会で委託事業をうけていく場合、社団法人化していくことになるのか？という質問が出され、それに対しては、一般社団にした場合は収益が出れば税金がかかってくることになるので、公益事業の委託は公益法人の東京都助産師会が委託契約を結び、各地区分会で受ける形のほうがスムーズであるという回答がされました。

議長は第 1 号議案について採択を行い、賛成多数で原案通り承認されました。

また、第 2 号議案 理事 13 名専任と、第 3 号議案監事 2 名専任については、ひとりずつ拍手をもって承認されました。

議長は、以上をもってすべての議案の審議を終了した旨を告げ、審議は終了しました。専務理事伊藤氏が本日の謝辞を述べ、閉会しました。

東京レインボープライド 2024 レポート

いのちの教育委員会 森下恵理子

東京レインボープライド 2024 は、LGBTQ+ コミュニティとその支持者たちが一堂に会し、多様性と平等を祝う、日本最大のプライドイベントとして 2024 年 4 月 19 日（金）～ 21 日（日）3 日間で開催されました。2024 年のテーマは「変わるまで、あきらめない」。このテーマのもと、LGBTQ+ コミュニティが直面する課題に対する認識を深め、社会全体で支え合うことの重要性が強調されました。東京レインボープライドは、LGBTQ+ 当事者並びにその支援者（Ally）と共に「性」と「生」の多様性を祝福するイベントです。「つながる場」を提供することで、性的指向および性自認にかかわらず、すべての人が差別や偏見にさらされることなく、より自分らしく生きていくことができる社会の実現を目指しています。多くの参加者がこのメッセージを胸に、イベントに参加しました。

パレードルートと雰囲気

東京レインボープライド 2024 のパレードは、例年通り渋谷の象徴的なスポットを巡り、代々木公園を出発地点として渋谷駅、原宿駅周辺を通過し、再び代々木公園へと戻るルートが設定されました。ルート上には、各所で応援する人々が集まり、沿道は色とりどりの旗やバナーで彩られました。参加者と観客が一体となって盛り上がり、自由で活気に満ちた雰囲気が漂っていました。



パレードの参加者

メインイベントであるパレードには日本のプライドパレード 30 周年ということもあり、過去最高の 15,000 人 60 梯団 24 フロートが参加しました。イベントの延べ動員数も約 270,000 人で過去最高でした。東京都助産師会は、昨年同様、パレードに参加し、LGBTQ+ フレンドリーな取り組みをアピールし、多様性を認め合う社会の実現のために助産師だからできることを発信しつづけなければならないと、身をもって体験した一日となりました。最後は、全員での記念撮影をイベントの成功を祝いながら一日を締めくくりました。

パレードの意義とメッセージ

パレードは単なるお祭りではなく、LGBTQ+ の権利を訴える重要な場でもあります。参加者たちは、差別や偏見に対する抗議の意を込め、また愛と平等を訴えるために行進しました。多くの参加者が関連するプラカードやバナーを手にしていました。また、パレード中には、一般の観客に対して理解と協力を呼びかけるメッセージも発信されました。沿道で見守る人々に対して、参加者たちは笑顔で手を振り、写真を撮り合うなど、互いに友好的な交流が見られました。このような対話を通じて、社会全体に対するポジティブな影響が広がっていくことが期待されます。LGBTQ+ の権利を訴え、社会における多様性の重要性を再認識させる場である、東京レインボープライド。皆様の参加をお待ちしています。

概要

TRP2024 2024 年 4 月 21 日

東京レインボープライド 2024

変わるまで、あきらめない

2023 変わるまで続ける

東京都助産師会参加者

相賀、荒、板橋、岩佐一恵、岩佐寛子、篠宮、下川、代田、宗、高橋、棚木、田村、土屋、橋口、比嘉、牧野、松本、森下、安田、若原（敬称略、50 音順） 計 20 名
代々木第二体育館 集合

教育委員会の活動

教育委員会担当理事 戸塚 麻美

教育委員会の主な活動は、東京都委託助産師教育指導講習会の計画・運営です。この講習会は東京都からの委託を受け、都民の保健医療の充実に資するため、東京都助産師会会員はもとより、都内に就業している非会員を含む全ての助産師に対し開かれたものとなっています。期待される社会的ニーズや役割を踏まえた高度な専門性や資質向上を図ることも目標に「保健指導に役立てよう」「最新の周産期知見」「専門的自立能力を高める」「ウィメンズヘルス」をテーマに年4回各6講座ずつ、計24講座の開催となります。9月から第1回の講座がスタートし、参加された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

コロナ前から長く続くこの委託講習会ですが、コロナ禍最中には開催回数を減らし、オンライン開催に変更したりと苦労を超えながらも毎年継続して実施してきたと諸先輩方から伺っています。二〇二二年度からは24回の講座中5回の対面講座を再開できるように、今年度二〇二四年度は10講座が対面講座となっています。新型コロナウイルス感染症の流行は依然続いています

講習会の実施については様々な状況を経験したことで、対面（手技・実技など）を必要とするものとオンライン（裾野を広げ、より多くの助産師が参加できる）の両面の良さを活かしていきけるように計画しています。この24講座毎年どのように企画されているのか、自分が参加者だった時には想像もしませんでした。教育委員会では大変だと思いませんか？

現在、9名の委員で活動しています。この教育委員会を中心として、助産所部会・施設勤務部会・保健指導部会・いのちの教育委員会・産後ケア推進特別委員会・災害対策委員会・政策提言委員会が担当回を担い、テーマ・講師を決定し、企画準備することになります。この講師を決めるのが担当者の頭を悩ませるところです。どういった内容が参加される方のニーズに合うのか、助産師としての知見を深める今の社会状況に沿ったテーマは何か、どんな講師の先生の話が聞きたいか、昨年度の委託講習会参

加者の皆さまからのアンケートを参考にしたり。参加者はもちろん、講師をしていただく先生にも企画運営するスタッフも満足いく講習会にするべく頭も体もコネも持ち合わせるものをフル稼働して、活動しています。今年度の委託講習会参加者の方にはぜひ、今後聞いてみたいテーマや内容・この先生の話が聞いてみたい！など事後アンケートにてご意見をお寄せいただけます。来年度以降の企画の参考になります。どうぞご協力よろしく願いいたします。

10月1日（火）より、第2回の委託講習会の申込受付が開始します。ぜひ「最新の周産期知見」を一緒に学びましょう！委託講習会についてはこちらからご覧ください。



2024年度 東京都助産師教育指導講習会 プログラム						
	開催日	会場	開催時間	講座テーマ	講師（要約版）	申込受付日
産科講習 に あ り ま す	9月14日（土）	2024年	13:30 ～ 14:30	林和国から見た乳癌の予防と治療	徳島県立医療センター 部長 西澤 真一	8月27日（火）
	9月18日（月）	東京都助産師会館	9:00 ～ 12:30	年々高まっている産後うつ病 ～その特徴と支援者の役割～	横浜市立病院 産婦人科部長 田口 正樹	
	9月19日（火）	2024年	9:00 ～ 12:00	女性の育育支援	国立成育医療研究センター 研究開発 産科科学部長 村田 健二	
	9月20日（水）	東京都助産師会館	13:30 ～ 16:30	育児と仕事の両立	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	9月21日（木）	東京都助産師会館	13:30 ～ 16:30	東京支店から学ぶ乳癌検出法 ～知識と経験の活用も目指して～	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	9月22日（金）	東京都助産師会館	13:30 ～ 16:30	産後うつ病の予防と治療 ～子育て支援者の役割も～	東京府立大学 産科部長 西澤 真一	
助産師の 実 務 に あ り ま す	11月12日（土）	2024年	13:30 ～ 16:30	新生児医療の最新知見	日本大学医学部小児科診療科・産科診療科 主任部長 森田 一樹	8月29日（木）
	11月13日（日）	2024年	13:30 ～ 16:30	インターネット上でのケアサービスの展開と地域連携 に必要な知識	国立成育医療研究センター 産科部・産科診療センター 産科部長 田口 正樹	
	11月14日（月）	東京都助産師会館	13:30 ～ 16:30	乳癌ケア	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	11月17日（木）	2024年	13:30 ～ 16:30	助産師が活躍する産後、フェリス入門	東京大学医学部産科・婦人科 部長 西澤 真一	
	11月20日（日）	2024年	13:30 ～ 16:30	産後うつ病の予防と治療 ～子育て支援者の役割も～	東京府立大学 産科部長 西澤 真一	
	11月21日（月）	東京都助産師会館	13:30 ～ 16:30	産後うつ病	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
産科 の 実 務 に あ り ま す	12月4日（土）	2024年	13:30 ～ 16:30	助産師から産後うつ病まで 産科診療科・産科診療センターの活用	みやぎ県立産科・婦人科 部長 西澤 真一	8月30日（金）
	12月7日（月）	東京都助産師会館	9:00 ～ 12:30	産後うつ病の予防と治療 ～子育て支援者の役割も～	国立成育医療研究センター 産科部・産科診療センター 産科部長 田口 正樹	
	12月9日（水）	2024年	9:00 ～ 12:00	赤ちゃんの顔を見ても	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	12月14日（日）	東京都助産師会館	13:30 ～ 16:30	産科スタッフのためのやさしい産後ケア講座	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	12月15日（月）	2024年	13:30 ～ 16:30	助産師が活躍する産後、フェリス入門	東京府立大学 産科部長 西澤 真一	
	12月20日（土）	2024年	13:30 ～ 16:30	HDP・GDPの最新知見	国立成育医療研究センター 産科部・産科診療センター 産科部長 田口 正樹	
フェリスヘルス に あ り ま す	1月4日（土）	2024年	8:00 ～ 11:00	メンタルヘルスケアに関する最新知見と助産師の役割 ～産後ケアから支援～	国立成育医療研究センター 産科部・産科診療センター 産科部長 田口 正樹	8月31日（土）
	1月10日（土）	2024年	8:00 ～ 11:00	産後、産後ケアで悩む乳癌の検査・治療の 最新知見	国立成育医療研究センター 産科部・産科診療センター 産科部長 田口 正樹	
	1月17日（土）	東京都助産師会館	8:00 ～ 12:30	産後ケアにおけるフェリスケアの活用可能性	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	1月18日（日）	2024年	13:30 ～ 16:30	産後うつ病の予防と治療 ～子育て支援者の役割も～	東京府立大学 産科部長 西澤 真一	
	1月22日（木）	2024年	9:00 ～ 12:00	子育てに関わる大人の発達障害	元「こどもとママの研究所」 理事長 藤田 正樹	
	1月23日（金）	2024年	9:00 ～ 11:00	産後うつ病における助産師の役割	社会福祉法人 岩田和信生命科学研究 会・生命科学研究センター 生命科学研究 部長 西澤 真一	

※本プログラムはあくまで参考です。開催日、オンライン等のどちらかを選択する必要があります。
 ※本プログラムはあくまで参考です。開催日、オンライン等のどちらかを選択する必要があります。
 ※本プログラムはあくまで参考です。開催日、オンライン等のどちらかを選択する必要があります。

今年度より政策提言委員会委員長を拝命しました。これまでの4年間の理事活動の柱の一つとして、助産師活動のアピールと行政運営の中に必要とされる助産師会となることを目指して活動をしてきました。先輩方の政策提言委員会活動を見て、助産師会員のためにどう動き、どのように伝えれば効果的なのか？ 私なりの考察を加え活動してきましたが、増え続ける東京都から助産師会への性教育の依頼、NICU入院中の母へのケアと退院後の母児ケアの依頼の対応と補助の強化についてはまだまだです。

政策提言委員会とは、公益社団法人 東京都助産師会 細則によると「行政機関・関連団体等、外部に対する意見の発信や陳情及び本会の政策に関わる事項について必要な活動を行う」となっています。東京都助産師会会員の助産師活動を広く多くの方々に知らせ、日々の助産業務をスムーズに行うことができるようにすること、そして経済的にも助産師活動に見合った評価と実績を作ることができる様に、東京都・各区市町村、保険医療システムをつかさどる厚労省・産婦人科医会等に意見を明確に伝えています。そして理解を得、政策の実現となるように委員会にて意見を出し合い、提言内容と提言場所・提言日時の交渉と確認・ヒアリングを毎年実施しています。

ここ数年の活動が功を奏して、永年の希望でありました助産所での妊婦健康診査票の使用が今年の10月から実現しそうです。また、助産所開業に大きく影響する嘱託医・嘱託医療機関等の連携に関する調査に対して予算が昨年からつき、東京都職員と共に解決に向けて遅々とした進みですが問題解決に向けて取り組んでいます。

今年度の政策提言書は次の5項目を重点的に訴えていきたいと思っています。

- ・出産を経験するすべての女性が、健やかな出産にかかるケア・支援サービスを利用できるように包括的に支援されたい。
- ・また地域で母子を支援する助産師の参画が推進されるようにすべての助産所における安全で安心な分娩を支援されたい。
- ・安心して妊娠・出産・子育てができる社会を実現するために、地域や施設で活動する助産師の能力向上に向けた取り組みを推進されたい。
- ・NICU等入院児の在宅療養への円滑な移行及び退院後の安定した生活の継続のために、母親への支援において、地域の助産師の活用を推進されたい。
- ・すべての子供（小・中・高）、プレコンセプション世代そして親世代など、あらゆる世代に向けた、妊娠・出産・育児などに、希望や喜びを感じられ、また一人ひとりが自身の性を受け入れられるような助産師による包括的性教育の実施と拡大を推進していただきたい。

令和6年度 政策提言委員会勉強会

日時：令和6年7月31日（水）
19:30~21:00 ZOOMにて

テーマ：効果的な要望書の作り方

対象：東京都助産師会会員

目的：効果的な要望書の作成とその後の活動について会員に周知、各地区における助産師活動に予算を付けてもらい安定した活動が展開できる一助とする

司会進行：青柳

時間	内容	担当
19:20	ZOOM 受付開始	政策提言委員
19:30	勉強会開催の趣意について	政策提言委員会理事 赤山
19:35~20:00	要望書作成のコツ	青柳
20:00~20:10	新中杉の活動	中村康子さん
20:10~20:20	品川港の活動	竹節志乃さん
20:20~20:35	23区の母子保健に関するデータ	鈴木孝子さん
20:35~20:55	意見・質疑応答	青柳
20:55~21:00	委員会よりお知らせなど	青柳

母子保健行政の実施は各区市町村にあるため、各地で効果的な政策提言ができる様に、要望書の作り方、活発な要望活動を展開している地区分会の実状などを学ぶ「効果的な要望書の作り方、知識・実際の対応について」の勉強会も7/31（水）にオンラインで開催しました。

多くの地区分会が行政的に的確に問題を提言し、助産師の活動をさらに活発にしていただける様に、今後も活動を続けていきます。そして子育てをしている母親・子どもと家族のために頑張る助産師会会員皆様を支えていきます。これからも、皆様からの情報やご意見をお待ちしております。

地区分会活動紹介

足立・葛飾／江戸川／墨田・台東



【足立・葛飾】会長：井出陽子

足立区と葛飾区は東京都の東部に位置し、下町の風情が今も残る地域です。東京の低地エリアにあり昔から河川の氾濫や高潮の影響を受けてきました。会長の働き掛けにより昨年葛飾区と「災害時における妊産婦への支援活動に関する協定」を終結。医師会などの災害時合同訓練や、食ベトイフェスタ（災害時の食と排泄に特化したイベント）にも参加し、関係者と顔の見える関係を築いてきました。今年は災害時の母子避難所と想定される施設での机上訓練を初めて実施する予定です。活動を通じて会員同士の交流も増えました。これからも安心して子育てできる環境を提供し、地域全体の親子の健康と安全を守ることを目指して取り組んで参ります。

（執筆者：江原美恵子）

江戸川区は東京都の東の端、葛西臨海公園をはじめ多くの公園があり、橋の向こうには東京ディズニーランドが見えます。防災ハザードマップには「ここ（江戸川区）においては、だめです！」という見出しで、SNSでも話題になりました。これを受け防災動画を4本作成しました（動画①②③④）（最下部リンクあり）。二〇二〇年からのるるの会（あつまる、つながる、ささえる、かんがえる、やってみる、できる）というコンセプトで、手作りのお弁当を食べながら参加者と助産師とが毎月さまざまな講座で賑やかに集っています。二〇二三年からは、「子育てに困ったらここへプロジェクト（こプロ）」として、外国にルーツを持つ方、22歳以下のママ・パパ、シングルママ・パパ、ワンオペママ、40代ママというような同じ境遇の方が集える場を提供しています。江戸川区主催のイベントにも参加し、区民の皆さまへ助産師の周知を心がけています。少しずつ若い助産師の加入も相次ぎ、これからの活動をさらにパワーアップしていきたいと思っています。



【江戸川】会長：岩佐一恵



【墨田・台東】会長：秦万理

下町の墨田台東地区には日本助産師会本部があり、古くから地域と密着した助産師の存在があります。そのとりこえ助産院では今年防災訓練が計画され、防災協定の終結に向けて地域と連携した災害への備えについて話し合いを重ねながら、お産の現場のみならず母子の安全を守る活動を続けています。二〇二三年より区の委託事業としてパ育クラスを担当し、妊娠期からのパートナーシップについてワークショップを実施。妊娠から出産、育児と切れ目ない支援を助産師が寄り添う形で毎月満員御礼の事業へと成長しました。墨田区ではいち早く区民の健康増進／リプロダクティブヘルス推進の事業が立ち上がり、行政担当者や医師会、薬剤師会と助産師会が一丸となって活動を進めています。中でもプレコンセプション無料オンライン相談は助産師会がスタートさせました。一般的には認知度の低い分野ですが、今年は8月9月11月に『まちかど保健室』を、10月には『プレコンセプション』自分らしく生きる』というテーマで啓蒙イベントを開催予定です。地域と助産師がより近くに感じられるイベントになるよう、ぜひ会員の皆様もご参加ください！

